

令和7年度 大阪成蹊女子高等学校 学校経営計画（評価）

1 めざす学校像

- ① 本学園の建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、「忠恕」の精神に基づき、「思いやりがあり、誠を尽くし人の立場にたって考え行動できる人材」、また社会に求められる「自立し、品格ある女性」を育成する学校（女子教育の推進）
- ② 女子に特化したキャリア教育を教育の柱として、女性として自主的に生きる力を育み、人間力を高めるために必要な資質や能力を育てる学校（キャリア教育の推進と人間力の育成）
- ③ グローバル社会に求められる多文化共生のマインドと必要な能力を育むとともに、確かな学力と「使える英語力」の向上を図る学校（国際教育・英語教育の推進）
- ④ 普通科の「特進コース」、「幼児教育コース」、「スポーツコース」、「総合キャリアコース」、「音楽コース」、「看護医療進学コース」、「英語コース」と美術科の「アート・イラスト・アニメーションコース」の8コースの教育内容を高め、生徒のニーズに応える生徒の夢を実現できる学校（多様なコースで夢を実現）
- ⑤ 共生の観点を基本として、他者を敬い、自己を肯定できる豊かな人権感覚を育むとともに、いじめのない安全で安心な学校（人権教育の推進、安全で安心な学校）

2 中期的目標

- 1.学力向上と学校教育力の強化
- ① コースの学びの充実による人間力の向上
- ・各コースの特性に応じた様々な教育活動、コース行事、キャリア教育等を通じて、社会で求められる人間力の向上を図る。
- ② 「主体的、対話的で深い学び」の実践による学力向上
- ・「基礎的・基本的な知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を育成するため、「主体的、対話的で深い学び」の実現を図る。そのためにアクティブラーニングの手法等も取り入れながら、授業改善の取り組みを進める。また自ら学習する姿勢を涵養し学力を向上させるため、自習場所等の拡充や希望者講習（夏期、冬期、春期）の充実を図る。
- ③ グローバル教育の推進とユネスコ活動
- ・海外修学旅行や海外研修などを実施し、生徒が多文化に触れる機会をを通してグローバル教育を推進していく。またユネスコスクール活動の更なる充実をめざす。
- ④ 使える英語教育の推進
- ・4 技能を中心に、英語教育の充実を学園の教育方針と合わせて強化する。とりわけ、リスニング・スピーキングを重視する「使える英語」の育成を進める。令和6年度に新設した「英語コース」がこの牽引役を務める。
- ⑤ 各種検定の合格をめざす実学教育の充実
- ・生徒の達成感を育む漢字検定・GTEC(英語検定)・秘書検定等の合格率や到達度の成果を高める。
- ⑥ ICT機器の活用
- ・全員が使用する iPad の活用方法について研究を進め、iPadが生徒の「学びの道具」として効果的なものとなるよう取り組みを進める。この他、全教室に設置したモニター、ICT機器を活用した学習効果の高い授業を工夫する。
- 2.円滑な学校運営と安全安心な学校づくり
- ① 募集広報活動の充実
- ・中学生の大幅減少や私立高校の環境の変化に関わらず、常に生徒が集まる魅力的な学校をめざす。学校力の向上と募集広報活動の強化を両輪とした学校経営を推進する。
- ② 内部進学を増大と進路指導の充実
- ・生徒の多様な進路選択を尊重しつつ、学園全体の発展を見据えて、併設大学・短大への内部進学者の確保に全力を挙げて取り組む。内部進学率 60%を目標にする。一方で、外部進学をめざす生徒へのサポートをさらに充実させ、全生徒の進路実現に全力を挙げて取り組む。
- ③ 生活指導の強化と自尊感情の醸成
- ・全教職員の共通理解のもと、全教職員による人権をベースとした生活指導(服装指導・頭髮指導等及び多様化する生徒課題に係る心のケアを含む)の徹底を図る。特に、生徒の自尊感情を醸成する「成蹊 pride」の趣旨を生徒・教職員で共有し、その確立をめざす。
- ④ いじめ防止と建学の精神を踏まえた教育の推進
- ・本校の「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、本校でのいじめ対策について全教職員で共通理解を図り、早期対応によりいじめのない学校をめざす。また、建学の精神に基づき、人間力教育を推進する。
- ⑤ 評価育成制度によるPDCAサイクルの推進と、FD研修の充実
- ・評価育成制度によるPDCAサイクルを通して、個々の教職員の資質と学校力の向上を図る。特に、FD研修の充実により、教職員の能力・指導力の向上を図る。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校評価アンケートの結果と分析
* 全体の結果を見ると、最も高い項目が「本校の部活動は活発に行われている」(3.40)であり、次いで「学校生活は楽しく充実している」(3.31)、「自分の所属コースに満足している」(同)、「体育祭等の学校行事は、みんなで楽しく行われるよう工夫している」(同)であった。 * 「この学校に入学して良かったと思う」という項目の数値は 3.15 で、昨年度は(3.16)であった(一昨年度の 3.10 からは上昇している)。特に特進コース、幼児教育コース、美術科などの満足度が高くなっている。 * 総合キャリアコースについては、項目「学校生活は楽しく充実している」は 3.24 と高い評価が出ているが、「生徒の興味関心、適正進路に応じた学習科目が多い」という項目は 2.98 と、他コースに比べて低くなる傾向にある。他コースが(特に 2 年次から)それぞれのコースの専門的な内容の学習が増えていくのに対し、総合キャリアコースでは、高大連携授業やキャリア教育に関する内容が他コースよりも充実していくのだが、これらの取り組みが総合的な学習の時間などの中で行われることが多く、他コースのようなコース独自の「学校設定科目」が少ないとの感覚が生徒の中にあるのかもしれない。実際には、キャリア教育に係る取り組みは他コースに比べると断然多くなるのだが、生徒がそのことを実感できるような取り組みの進め方を工夫する必要がある。 * 英語コースについては、現在創設から2年目となり、1期生(2年生)がオーストラリアへの5週間の留学も経験したところである。そのため2年生の評価を見ると、項目「コース独自の取り組み(イングリッシュキャンプ、オーストラリア留学等)に満足している」については 3.31 と高い評価となっている。また「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」という項目については、(英語での発表も多いことから)3.46 と高い数値となった。一方で、コース独自の学び(オンライン英会話、英会話の授業、英検対策等)が充実しているという項目が 2.92 と低くなった。ただ、この項目の1年生の評価は 3.71 と極めて高く、2年次の留学開始後はオンライン英会話のサポートがなくなることが影響しているかもしれない。いずれにせよ、1期生の満足度をさらに高め、今後の英語コースの発展につなげていけるように、取り組みを進める。 * 看護医療進学コースについて、今春卒業した3年生の状況を見ると、「この学校に入学してよかったと思う」の項目は、1年次の 2.56 という極めて低い評価が3年次には 2.92 ま

で上昇した。また同コースの保護者の評価を見ると、「この学校に入学させてよかった」という項目の評価が、一昨年 の 2.65 から、昨年の 2.80、今年の 3.04 と年々上昇している。看護医療進学コースについては、内部、外部への進学を問わず、将来の「生命を支える職業に従事する」という使命感とともに必要な学力を高めるため、1年次より「放課後学習」などの取り組みを進めており、入学前の自分のイメージより「勉強しないといけない」という意識がこれらの評価に影響していると考えられるが、今春卒業の3期生まで送り出してきた中で、進路実績等も含め、コースの活動に理解を深めていただいていると感じる。今後とも、さらに満足度を高めるべく、生徒の学習やコースの取り組みへのモチベーションを高める努力をさらに積み重ねるとともに、取り組み内容の一層の充実を図っていきたい。

学校評価委員会からの意見

▽令和7年度学校評議員

高木 恒夫	公益社団法人日本教育会大阪府支部事務局次長 (元 高槻市立第四中学校長)	山口 智子	(公財)大阪観光局 教育旅行(学校交流)コーディネーター・留学生支援担当 元大阪府立三国丘高等学校校長
元賀 圓治	認可地縁団体相川町会会長、 相川中振興町会会長、 大阪成蹊学園評議員	安達 宏昭	大阪大学大学院薬学研究科特任教授 (株)創品代表取締役、(福)あおば福祉会理事、 柴又運輸(株)顧問、(株)dotAqua 代表取締役、(株)HOIST 取締役、(一社)レジリエンスジャパン推進協議会参与、(一社)日本 MA-T 工業会専務理事兼事務局長
土居 典子	令和7年度 PTA 会長		

【第一回： R07 年7月11日】

- * 基礎学力というところが大事。保護者の関心も高い。新しい取り組みも大事だが、ベーシックな取り組みとしてしっかり進めてほしい。
- * 和菓子等の製作も、企画から始めていると思うが、経営者の立場として起業にフォーカスしている。自分で起業していくという教育も必要ではないか。地方の高校の取組みで、カレンダーを作って町民に売って、収益を得て、そうした経験をしたことで、難関大学に合格したという話を聞いた。本校は、コースもたくさんあるので、このような特色を多く出せるかもしれない。総花的ではなく、特徴を発信していけばよい。
- * 大学連携について、量も大事だが、内容・質も大事。アンケート等も取っていると思うが、満足度が高まるような授業を進めてほしい。
- * 夏休み等の夏期講習などの良い取り組みがあるので、記載すればよいと思う。
- * 内面から子どもたちの変化を起こそうという気持ちがよく伝わってきて嬉しく思う。
- * 大学連携について、量も大事だが、内容・質も大事。アンケート等も取っていると思うが、満足度が高まるような授業を進めてほしい。
- * 夏休み等の夏期講習などの良い取り組みがあるので、記載すればよいと思う。
- * 内面から子どもたちの変化を起こそうという気持ちがよく伝わってきて嬉しく思う。
- * 人口減少の中で、「勝ち組」の成蹊としてどうしていくのか、どう取り組んでいくのか、そろそろ 10 年先を見て始める必要があるのでは？

【第二回： R08 年3月6日】

- * (学校評価アンケートなど) 振り返りの機会が継続してあるのは良いが、イベントや象徴的な出来事に引っ張られることがある。振り返ったときに出てきている「日常の感覚」が表されているか考えることも必要。例えば「最高得点と最低得点の差」について、コース別に確認するなど必要かもしれない。その差が大きいコースは何か特徴が表れているのかもしれないし、その差が少なくて全体として低い評価値あるいは高い評価値ならどうか、など、点数をつける傾向も踏まえて分析するといいいかもしれない。
- * 全体としてあまり高い数値が出ていないコースがあるのであれば、生徒に直接聞いてみる方がいいのではないか。
- * 「教え方の工夫」など学習面でさらに評価が高まってほしい。教員の強化指導力をさらに高めていってほしい。校内での研修なども工夫してほしい。
- * 全体的にみると、一定の評価が出ているので、先生が苦労しながらも子どもの姿を見ながら指導してくれていると思う。
- * 英語、音楽、美術など、「教科名」がついているコースについて、例えば英語コースなら英語のどんな力をつけるのか、留学ならどんな目的をもって留学させるのか、そうした点を先生もしっかりと共通認識を持って生徒に指導していってほしい。特に「音楽」や「美術」など大変「幅広い」もので、生徒のイメージも大きな差があると思うので、より先生たちの認識・意識の共有が大切だと思う。
- * 英語コースやスポーツコースなど、1クラスのコースがあるが、同じメンバーで3年間過ごすので、仲が良いといいが、少し仲が悪くなると尾を引くかもしれない。2クラス以上あると、イベントやコース行事を通じて、それまで話したことのない子と初めて話せてよかったなどの感想を聞く。(1クラスのコースには)より丁寧なサポートをしてあげてほしい。
- * 子どもたちが何がしたいのか、丁寧に聞き取りをしていく中で、クラスの集団がまとまってくるのかもしれない。生徒の想いと教師の想いが乖離しないようにすべき。子どもの言うことを聞いて、そこからどうすればいいかと考えていかないといけない。子どもの想いを聞きながら、自分たちで考えさせて、教師はヒントを与える形など、工夫をしながら、よい集団づくりをしてほしい。

3 今年度の取組内容及び自己評価

目 標	今年度の教育目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の充実と学力向上	① アクティブ・ラーニング(AL)の手法を取り入れた授業の実施	1.グループ活動での活用:グループ発表、討議等、探求活動などでALを適切な授業場面で実施する。 2.課題解決学習 :一方的な講義形態に終わらず、主体的に生徒同士が協力しながら課題・問題を解決する学習方法を積極的に取り入れる。	学校評価「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会」の肯定率	学校評価の肯定率が、R5＝84％、R6＝89％と、R7＝87％と高い数値を維持しており、多くの授業でグループワークや生徒による発表が当たり前のように見られるようになった。今後はさらに質の向上に取り組んでいく。
	②iPad の効果的な活用	1. 授業での iPad の活用:授業での活用実績を高める。その中で効果的な活用方法等を教員間で共有することでさらなる活用を図る。 2.「ロイロ・ノート」の活用をすすめ、iPad 活用の利便性を高める。	学校評価「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」の肯定率 授業アンケート 「授業でiPad やプリントなどをうまく活用している」の平均値	「教え方に工夫をしている」項目の肯定率は、R5＝83％、R6＝85％、R7＝86％であり、教員による授業の工夫が、一定、生徒にも伝わっている。また「iPad 等を活用している」項目は、R5＝3.24、R6＝3.29、R7＝3.29 であり、多くの授業で活用されている。「クラスルーム」、「ロイロ・ノート」など、なくてはならないツールとなってきている。
	③評価育成制度を通した教科指導の充実と、公開授業、研究授業の実施	1.評価育成での教科指導力の向上 生徒による授業アンケートや評価育成制度でのPDCAサイクルを活用しながら、教科指導力の向上をめざす。 2.公開授業の実施 年 2 回の公開授業週間を設定し、互見授業を進める。 3. 研究授業の実施 各教科で研究授業を行い、授業力の向上を図る。 4.授業改善のための新たな方策を検討し、実施する。	授業アンケート「興味・関心」の項目、「知識・技能」の項目の平均値	1.授業アンケートの「興味・関心」の項目は、R5=3.19、R6=3.22、R7＝3.19 であり、さらに生徒の興味・関心を高める工夫をすすめる。「知識・技能」の項目は、R5=3.26、R6=3.29、R7＝3.25 となっており、さらなる向上を図っていく。 2. 公開授業は、1 学期と2学期の各一週間の設定を行い、他の教員の授業を見たり、見せたりという互見授業の取り組みを行った。

2 全教職員が一体となった学校運営				3.研究授業は、国語科、地歴・公民科、理科、保健体育科、外国語科、芸術科美術、芸術科音楽で実施。教科指導のさらなる充実に取り組んでいく。 4.具体的な方策については、検討を継続する。																																							
	④各種検定の合格をめざす 実学教育の充実	・検定合格や資格取得に対応する教科の取組みを進める。 ・実用英語検定(英検)の希望者受験の推進方策について検討する。	各種検定の合格率	R7年度の各合格率は以下のとおり。生徒の意識づけ等さらに進め、合格率を高めるよう努める。 世界遺産検定 58.1% (R6:43.2%) 秘書検定 65.9% (R6: 40.0%) 漢字検定 28.9% (R6: 34.3%)																																							
	① 生徒募集力の強化と コースの特色の鮮明化	1.募集広報企画室の活動に対する全教職員の協力体制を強化し、オープンスクール(OS)は全教職員体制で臨む。 2.コース毎に生徒ニーズと学校教育方針を反映した特色づくりを更に強化する。 【普通科】 ア.総合キャリアコース 併設大学・短大の学部学科との接続を鮮明化し、特色を中学生に伝える広報を充実する。 イ.幼児教育コース 体験実習等を実施するとともに、併設大学短大の教育学部、幼児教育学科との接続強化を維持する。 ウ.スポーツコース 併設大学経営学部やびわこ成蹊スポーツ大学との密接な接続を維持し、スポーツ系の学びを充実させる。 エ.特進コース 生徒の自己学習力の強化を図り、難関大学に進学できる学力伸長の取組みを強化する。またコースの魅力発信に努め、一定の入学者数を確保する。 オ.音楽コース 大阪音楽大学との連携を推進するとともに、普通科の音楽コースとして、音楽への興味・関心をさらに高める取り組みを推進する。 カ.看護医療進学コース コース設置3年目を迎え、併設大学の看護学部との連携を充実させながら、進路実現を意識した学力の向上を図る。1期生の進路実現に向け、全力で支援する。 キ.英語コース(令和6年度設置) 英語コースのカリキュラムや取組内容の充実を図るとともに、関係機関等との連携・調整をすすめる。また、「実用英語検定」の各級合格に向けた取組みを進める。オーストラリア留学などコースの魅力発信に努め、一定の入学者数を確保する。 【美術科 アート・イラスト・アニメーションコース】 学内外の各種コンペでの上位入賞を今後も維持し、その成果を広く発信し、本学科の充実をアピールする。併設大学芸術学部への内部進学を更に強化する。 3.専願受験者の増加を図る方策を検討し、実施する。	1.志願者数 2.各コース別志願者数と入学者数 3.専願受験者の増加	専願（昨年度）＝468 （446） 併願（ 同 ）＝436 （429） 合計（ 同 ）＝904 （875） 入学（ 同 ）＝505 （495） <table><tr><td>コース</td><td>専願</td><td>併願</td><td>入学</td></tr><tr><td>特進</td><td>35</td><td>51</td><td>39</td></tr><tr><td>看護</td><td>40</td><td>24</td><td>38</td></tr><tr><td>英語</td><td>23</td><td>16</td><td>27</td></tr><tr><td>総カリ</td><td>145</td><td>171</td><td>160</td></tr><tr><td>スポーツ</td><td>21</td><td>17</td><td>21</td></tr><tr><td>幼教</td><td>58</td><td>40</td><td>64</td></tr><tr><td>音楽</td><td>43</td><td>19</td><td>44</td></tr><tr><td>美術</td><td>103</td><td>98</td><td>112</td></tr><tr><td>合計</td><td>468</td><td>436</td><td>505</td></tr></table> ＜評価＞ ＊少子化の中で、昨年を 10 人上回る入学者を迎えることができたことは、募集が好調であったと総括できる。 ＊しかし、コースによってはさらに入学者を増やす必要がある。特に英語コースやスポーツコースは 30 名に満たない入学者となっている。ただ、入学した生徒たちは大変元気に取り組んでおり、そうした姿勢や彼女たちの満足度をしっかりと広報しながら、次年度の募集につなげたい。 ＊大阪府全体でみると、志願者数は、私学専願が約 1000 人増加しているが、併願が約 1200 人減少している。併願の戻り率は 10.7％（昨年度 10.0％）と、一昨年度の 9.8％は上回ったものの、今後も大幅に増えるとは考えられない状況である。 ＊今後も府内公立高校の定員割れ（二極化が著しい）や、入試の前倒し等も検討されていることから、併願受験者・戻り率はさらに減少することが予測され、いかに専願受験者を集めるかが勝負になる。改めて、本校の良さが中学生とその保護者に伝わるよう、取り組んでいく。	コース	専願	併願	入学	特進	35	51	39	看護	40	24	38	英語	23	16	27	総カリ	145	171	160	スポーツ	21	17	21	幼教	58	40	64	音楽	43	19	44	美術	103	98	112	合計	468	436
コース	専願	併願	入学																																								
特進	35	51	39																																								
看護	40	24	38																																								
英語	23	16	27																																								
総カリ	145	171	160																																								
スポーツ	21	17	21																																								
幼教	58	40	64																																								
音楽	43	19	44																																								
美術	103	98	112																																								
合計	468	436	505																																								

	② 高大の教員間連携を強化し、内部進学 of 拡大と進路指導を充実	1.内部進学率の拡大 併設大学・短大への内部進学者の拡大に向けて、3 年生担任団と進路指導部との連携強化を更に進め、内部進学率 52%の達成を目指す。 2.学園内高大連携の拡大 併設大学・短大との学園内高大連携を更に強化し、連携授業の充実努める。連携授業 120 以上をめざす。 3.併設高校生対象オープンキャンパス(OC)の充実 併設高校 2 年生・3 年生対象OCの充実を図る。 4.学習活動の継続 内部進学が内定後、進学後に必要な学力向上に向けた学習を継続させるための入学前教育を実践する。	1.内部進学率 2.学園内高大連携授業の実施数 3.併設校対象OCの状況 4.学習活動の継続	1.内部進学率は今年度は 39.9%と昨年度(50.9%)を大きく下回った。毎年目標は「200 名」に設定しているが、最終が 181 名と目標を達成できなかった。改めて併設大学等の良さを伝えながら、内部進学者数を増やすべく努める。 2.高大連携授業は R6＝117 コマに対し、R7＝122 コマであった。今後もある程度の連携授業の量を確保しながらも、生徒の満足度が高まるような連携授業を、大学・短大と連携して実施していきたい。また令和 9 年度から土曜日が原則休みとなるため、特に総合キャリアコースの連携授業の枠組みについて、改めて検討していく。 3. 併設高校生対象のオープンキャンパスは、今年度は、3年生は4月 19 日、2年生は6月 28 日に実施した。今後も大学の入試広報と連携しながら、よりよい OC をめざして取り組みたい。 4.併設大学・短期大学の各学部、各学科と連携し、入学前教育を実施した。
3 生活指導の充実	建学の精神を踏まえた女子教育の充実と、学園のブランド力向上運動と連携した生活指導の充実	1.女子教育の充実 建学の精神を踏まえた伝統ある本校の女子教育に必要な生活指導を徹底する。頭髪指導・服装指導など生活指導に関する教員向け指針を全教職員で共通理解し、全教職員による人権をベースとした生活指導を徹底する。 2.学園のブランド力向上運動 学園の運動と連携して、日々の挨拶運動等を更に進める。生徒会への働きかけも強める。 3.正しいSNSの使い方 近年のスマホ普及に伴い、生徒のSNSの正しい利用に向けて生徒への指導を強化する。ネット上でのトラブルを最小限に減らす取組みを推進する。	1.学校評価「学校生活について先生の指導はよくわかる」の肯定率 2.朝の挨拶運動の状況 3.スマホ関連の取り組み状況	1.「先生の指導はよくわかる」の肯定率は、R5=81%、R6＝81%、R7＝82%であった。生徒の納得感がさらに高まるよう取り組みを進める。 2. 生活指導部の教員等を中心に、毎朝取り組んだ。生徒会執行部も学園正門前や下足室で挨拶運動を行った。感覚的には挨拶をする生徒が毎年増えてきている。引き続き、取り組みを進める。 3.毎年、新入生とその保護者を対象に講演会を実施している。今年度も、入学者説明会等で外部講師を招き、スマートフォンや SNS の利用について注意を促した。
4 いじめ防止等の対策	いじめ防止の取り組みと、建学の精神に沿った豊かな人権感覚の育成	1.いじめ防止対策 学校制定の「学校いじめ防止基本方針」を全教職員が十分に理解し、建学の精神を踏まえつつ、生徒が互いに他者を理解し、尊重し合える豊かな人権感覚をあらゆる教育活動の中で育む。 2.人権ホームルーム 「年間計画」に基づき生徒いじめアンケートを実施し、いじめ等の未然防止に努め、安全で安心な学校づくりをめざす。また、いじめに対するガイドラインを遵守し、早期対応と組織対応に努める。	1.いじめ件数 2.ホームルームでの人権学習実施状況	1.今年度に認知したいじめ件数は 1 件。いじめは把握次第、組織的に対応する体制をとっている。 2.人権学習の実施状況は以下のとおり。 1年「爽やかな人間関係を作る」(4月) 2年「映画『チョコレートドーナツ』鑑賞」(9月) 3年「デートDV防止～あなたや友達を加害者にも被害者にもしないために～」(11月)
5 生徒会活動・部活動の活性化	生徒の自主性を育むことをねらいとして、生徒会活動および部活動を活性化	1.生徒会活動の活性化 生徒会としての日常的な活動を積極的にアピールし、文化祭、体育祭、予餞会の各企画委員の活動支援体制の拡充を図る。学年を超えた生徒同士の交流を深め、人間関係を円滑に構築できる力を育てる。 2.部活動の活性化 新入生に運動部、文化部への加入を積極的に推奨し、部活動・同好会の加入率を高め、部活動の活性化を図る。 3.生徒の達成感を高める活動の推奨 運動部以外の文化系部活のコンテストや発表会等の成績発表を充実させ、ボランティア活動を含めて、積極的に生徒の達成感・成就感を育み、生徒の内面を鍛える取り組みを進める。	1.学校評価「文化祭等の学校行事は、みんなで楽しく行われるよう工夫している」の肯定率 2.部活動加入率 3.コンテスト等の表彰歴、各種ボランティア活動状況等	1.「学校行事は楽しく行われるよう工夫している」の項目の肯定率は、R5=85%、R6＝88%、R7＝88%である。さらに満足度を高めるべく、工夫を凝らす。 2.部活動加入率は、R5=52.5%、R6=55.1%、R7＝56.7 と回復してきている。当面の目標として 60%の加入率を目指し、取り組みを進める。 3.表彰等の主なものは以下のとおり。 *チアダンス部 全国大会出場 *コーラス部 関西大会出場 *美術科 大阪府警「ストーカー被害防止啓発ポスター」最優秀賞 *軽音楽部 関西地区大会「大阪芸術大学ゴールドデンスニーカー賞」受賞 *大阪府障がい者スポーツ大会へのボランティア参加 等

4 今後の改善方策

1. 学習指導の充実と学力向上

まずは、「生徒の学力を伸ばす」という意識を全教員が共有できるよう、機会を重ねる。

公開授業や研究授業の機会のみならず、普段から授業を通じて生徒の学力を高める取り組みを、学校全体として進めていく。梶田叡一氏によると、学習意欲・意志を高める内発的動機付けとして、「面白い」、「やりがいがある・自信が持てる」、「大事だから」、「しなくてはならないから」の4点があげられており、このことを踏まえて改めて「わかる授業」、「楽しい授業」、「できたと実感できる授業」をめざして不断に授業改善に取り組んでいく。また授業外においても、長期休業中の講習などを活性化させるべく方策を検討していく。さらに「進路目標」を早期に持たせることも重要で、3年間を見据えた進路指導計画の見直しを進めていき、これらすべての結果として生徒の学習習慣が定着し、学力が向上するよう取り組む。

2. グローバル教育・英語教育の充実

海外修学旅行や海外研修等は、引き続き実施できた。これらの取り組みは、参加した生徒にも大変好評であり、貴重な人間的成長の機会ともなっている。また、今後は、オンライン等も活用しながら、ハイブリッドな国際交流の取り組みができないか模索していく。また、ユネスコスクールとしての活動や、本校生徒会中心の MOTTAINAI 活動をさらに充実させたい。特にユネスコスクールの活動は、今後も他校の取組等も参考にしながら進めていく。

こうした取り組みを通じて、生徒にグローバル化が進む社会への参画意識を高めるとともに、コミュニケーション・ツールとしての英語への興味を高めていく。

なお、次年度は「英語コース」が3年目を迎え完成年度となる。今後に向けて、このコースの取り組みをさらに鮮明化させるべく努める。

3. コースの教育内容の一層の充実

本校の最大の特色は、生徒のニーズに応える2学科8コースの設定である。これまでそれぞれのコースで特色ある教育活動を充実させてきており、その内容は、誰に対しても誇れるものとなっていると自負している。今後も工夫に工夫を重ね、各コースの活動を一層充実させて、生徒・保護者の満足度を高めるとともに、取り組み内容を各種ツールを通じて発信し、より多くの生徒が本校に入学することを希望するよう、募集活動を強化していく。